

3

MARCH
2015

花桃の里 古河 桃まつり



こ が
古河

広
報

No.114

今月の主な内容

- | | |
|------------------------------|---|
| ● 古河名崎工業団地 | 2 |
| ● タウンミーティング | 4 |
| ● 2市2町「関東どまんなか
サミット会議」を発足 | 5 |



伸びゆく 古河名崎工業団地

～新工場が建設ラッシュ～

アクスル工場が間もなく稼働

日野自動車株式会社が立地している古河名崎工業団地では、新たな工場の建設が進められています。平成24年5月から稼働を開始しているKD工場*に続き、アクスル工場が間もなく稼働・生産を開始します。

今回稼働するアクスル工場は、車軸を製造する工場、自動車製造にとっては主要な部品工場となります。【写真①】

※ KD 工場：各種部品を梱包し海外へ出荷する工場

新工場も続々着工

段階的に建設が進められている日野自動車古河工場は、平成29年初に予定される本格稼働に向けて、急ピッチで整備が行われていきます。

アクスル工場に続き、フレーム工場*、車両組立工場、運転台を製造するキャブ工場など、今後続々と工場建設が進められていく予定です。

※フレーム工場：車台の骨格部分を製造する工場

地域に根ざした企業活動を

日野自動車の基本理念は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」こと。地域に根ざした社会貢献活動として立哨活動や清掃活動、地元小中学校への支援活動として「日野文庫」(書籍・書架の寄付)や交通安全教室の開催など、地元に貢献していただいています。

また、地元の行政自治会、コミュニティ等と積極的にコミュニケーションを図りながら、工場建設を進めています。【写真②～⑤】



◀ 地域説明会を開催し、工場周辺の交通安全対策などを説明



古河市は若者に選ばれるまちづくりを推進しています

日野自動車古河工場では、平成29年初に予定される本格稼働開始に向けて、現在、準備が進められています。本格稼働時には、従業員数2,000人規模となることが想定されています。

今後、従業員の転入、関連企業の進出等が活発になると見込まれるため、市では、多くの従業員の皆さんに古河市内に住んでいただけるよう、見学会などを通じて市の魅力をPRするなど定住支援を行っています。

今後も「若者に選ばれるまちづくり」を進めていくなかで、若者世帯・子育て世帯をはじめ、多くの人に古河市に住んでいただけるように定住支援を進めていきます。



▲従業員と家族と一緒に市内を見学。道の駅では昼食や買い物を楽しみました

地域のさらなる発展をめざします

市では、古河名崎工業団地をさらに拡張するため、平成26年11月に都市計画の変更を行いました。地区計画、用途地域の変更により、工場関連の福利厚生施設などの建設を念頭にさらなる産業の発展をめざしていきます。

企業誘致・定住支援に取り組めます

市はさらに、企業の誘致活動も進めています。誘致企業は雇用の受け皿となったり、税収面でも重要な役割を果たしています。

今後も、企業立地による波及効果を最大限に取り込み、地域経済の活性化、地域の発展が図れるよう、企業誘致や従業員の定住支援に取り組んでいきます。

【問】企業誘致推進室（総和庁舎）

☎ 92-3111



タウンミーティングを開催しました

市と地域の未来を考える懇談会

市民によるまちづくりの推進を目的として、市長をはじめとする市執行部が地域に出向き、直接市民と意見交換を行う「タウンミーティング」が、昨年10月1日から11月27日まで開催されました。地域住民と密な意見交換がしたいとの趣旨で、行政自治会の地区ごとに全20会場で行われました。市からは市長や副市長、教育長、部長らが出席。各会場をまわり、地域の魅力や課題など、多岐にわたる質問や意見、提言をいただきました。

今後も市民の皆さんの声を聴く機会を設け、いただいた意見等を参考にしながら「市民が主役のまちづくり」に取り組んでいきます。

■実施概要

開催期間 平成26年10月1日～11月27日

※行政自治会の地区ごとに全20回を開催。

参加者数 1,259人

■質問事項

質問件数 435件

(事前質問件数174件、当日質問件数261件)

【問】企画課(総和庁舎) ☎92-3111

質問内容の主な内訳		
件数	内容	
環境安全	144件	空き地・空き家対策、交通安全対策、消防団員の確保
建設	141件	道路・歩道整備 雨水排水対策
教育	45件	通学路の安全対策 学校備品の修繕
健康福祉	27件	ひとり暮らし高齢者対策
文化スポーツ	25件	市施設運営の改善
産業	20件	イベント内容の改善 企業誘致
市民サービス	15件	コミュニティの維持・管理
上下水道	14件	下水道・農業集落排水整備
その他	53件	
合計	484件	

※一つの質問で複数分野にかかるものがあるため、合計の数と質問件数は一致しません。

※上記質問の回答については、市公式ホームページに掲載する予定です。



広域行政の連携を強化 「関東どまんなかサミット会議」

古河市、埼玉県加須市、栃木県野木町で構成する「三国サミット会議」に、1月28日、群馬県板倉町が加入しました。4自治体が関東地方のほぼ中央に位置することから、会議の名称も「関東どまんなかサミット会議」に改称。災害時相互応援協定や公共施設の相互利用に関する協定書を取り交わしました。

関東4県の県境に位置する隣接自治体が相互に協力・連携することで、魅力ある圏域の形成をめざします。

【問】企画課(総和庁舎) ☎92-3111



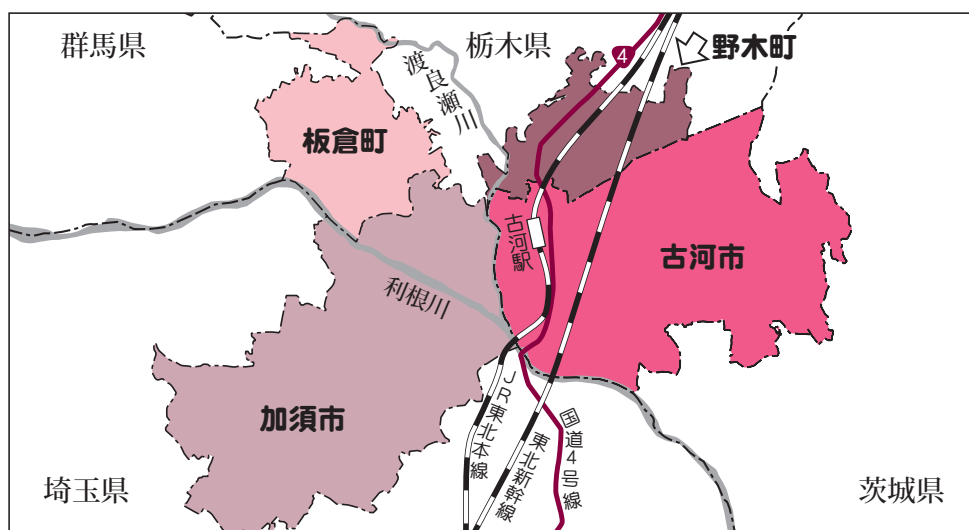
▲協定書を取り交わし笑顔で握手をする4市町長
(左から板倉町・栗原実町長、加須市・大橋良一市長、古河市・菅谷憲一郎市長、野木町・真瀬宏子町長)

4月から公共施設相互利用拡大

これまでの加須市・野木町の施設と同様に、4月1日からは板倉町の公共施設も、それぞれの住民と同一料金で利用できるようになります。利用できる公共施設名など詳しくは「広報古河4月号」でお知らせします。

また、イベント情報や観光情報、施設情報など、互いの広報紙を相互に利用した情報発信を4市町に拡大。「関東どまんなかサミット情報」として、広報紙の相互掲載を行います。

経 過	
昭和63(1988)年4月	三国サミット会議設立(古河市、総和町、北川辺町、野木町)
平成8(1996)年12月	「災害時における相互応援に関する協定」の締結
平成9(1997)年5月	「公の施設の相互利用に関する協定」の締結
平成27(2015)年1月28日	群馬県板倉町の加入により「関東どまんなかサミット会議」に改称 「災害時における相互応援に関する協定」「公の施設の相互利用に関する協定」の再締結



男女が共に働きやすい環境を目指して

古河市は「男女共同参画宣言都市」として、すべての男女が互いに尊重し合い、一人ひとりが自分らしく心豊かに生活できる社会を目指しています。それを実現するためには、市・市民・事業者が一体となって積極的に取り組むことが不可欠です。男女共同参画に向けたさまざまな取り組みを紹介します。

【問】人権・男女共同参画室(総和庁舎) ☎92-3111

企業の取り組み — 三桜工業(株) —

- ダイバーシティ(多様性)推進の専任組織を設置し、人財&働く環境の多様化を推進
- 保育所「さくらんぼ」を事業所敷地内に設置
- きめ細やかなワーク・ライフ・バランス推進の実施

ダイバーシティ(多様性)についてどうお考えですか

さまざまなバックグラウンドを持つ社員が多く在籍していることが弊社の強みであり、その多様な部分に価値があると考えております。この考えのもと、そのような強みをさらに活用することを目的として、平成25(2013)年にグローバル管理本部内に新たにダイバーシティ推進グループを設置しました。



HAMS室
ダイバーシティ推進グループ長
羅露さん

保育所「さくらんぼ」を設置したきっかけは何ですか

社員の子育て支援策の一環として、平成20(2008)年に古河事業所近接に保育所「さくらんぼ」を設置しました。開所時間帯を弊社のカレンダーに合わせて利用しやすくしています。また、育休明けの職場復帰をよりスムーズにすすめることができるなどメリットが大きいです。



▲開園してから7年目を
迎えました



▲運動会、クリスマス会
も実施しています

ワーク・ライフ・バランスの取り組みについて教えてください

ワーク・ライフ・バランスの視点から考えた業務の効率化という切り口からプロジェクトを立ち上げ、現在2年目です。社員一人ひとりが、ワークで時間当たりの生産性を上げて定時に帰宅し、それぞれのライフも充実させることでシナジー(相乗)効果を狙うのが目的です。外部からも知恵とノウハウを取り入れて、あらかじめ選定された対象チームと8カ月単位で取り組んでいます。具体的な実施事項は、外部講師による講演会、対象チームの管理職研修、対象チームのメンバーが毎週、毎日実施している取り組み等です。



男女共同参画についてどうお考えでしょうか

人間同士で支えながら生きていく社会をイメージしています。ワークの面では「個人」が仕事をしてアウトプットを出すことによって組織の中で活躍していく。ライフの面では「家族」がそれぞれ支え合いながら成長していく。どうすれば皆がより楽しくできるかを常に考えて行動するのが良いと思います。

市民の取り組み ー 男女共同参画古河市民ネットワークゆめこらぼ ー

平成23年に、市内で活動する団体および個人が協力・連携し、男女共同参画を推進することを目的として設立、5年目を迎えました。現在24団体、個人12人が登録しています。皆さんの参加をお待ちしています。



▲フォトコンテストでの投票案内



◀古河関東ド・マンナカ祭りでの啓発活動

古河市女性人材バンクに登録しませんか

古河市女性人材バンクは、女性の視点やアイデアを政策・方針を決定する場面に取り入れるために設立されました。登録すると、各種審議会などの委員の候補者となります。

平成26年度男女共同参画推進事業 2014 パートナーシップ in 古河フォトコンテスト

昨年11月から12月にかけて市内8カ所で開催したフォトコンテストでは、市外からの応募作品を含め「いきいきと働く女性部門」22作品に1,356票、「子育てする男性部門」34作品に1,370票の来場者投票をいただきました。

その中で、それぞれ得票数上位3作品の表彰を行いました。

たくさんのご応募ありがとうございました！



◆◇いきいきと働く女性部門◆◇

最高得票賞 259 票

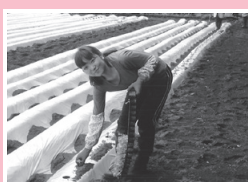
「すずちゃん」さん
『今年も豊作ね！』



「おいしそう
な野菜が畑
いっぱい
あふれ、い
きいきと働
く姿勢が見
ていただく
人に伝わると嬉しく思います」

準得票賞 127 票

「4013」さん
『新米奥さんのレタス植え』



「4Hクラブ主催の『こがde農コン』で知り合い結婚しました。いつも笑顔で元気に働いてくれます。ありがとう」

準々得票賞 103 票

「こつぷ」さん
『すべてのお客様をかわいくキレイに☆』



「女性がいきいきと働く姿は現代の社会を映し出していると思います。全国の働く女性が輝ける環境が整っていくことを願っています」

◆◇子育てする男性部門◆◇

最高得票賞 155 票

小林 優基さん
『新米パパと息子のおふろタイム』



「子育ては大変だけど、とても楽しい！」

準得票賞 100 票

長沼 絹代さん
『父の背中』



「長男に沐浴の光景を見せていました。息子たちも夫のように、一緒に子育てをしてくれる男性になってほしいです」

準々得票賞 97 票

新江 和貴さん
『わが娘よ、大きくなあれ!!』



「慣れないことも多く、大変なこともあります。立派な『育メン』を目指してがんばっています!!」

人事行政の 運営等の状況を公表します

市は、人事行政の公平性と透明性を高めるため「古河市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」を制定しています。この条例に基づき、職員の給与や定員管理の状況などを公表します。

【問】職員課（総和庁舎） ☎ 92-3111

1. 職員の任免および職員数に関する状況

(1) 平成26年度の職員採用状況

職 種	採用人数(人)
一般事務	16
臨床心理士	1
言語聴覚士	1
計	18

(2) 部門別職員数の状況

(各年4月1日現在)

部 門		職員数 (人)		増減数 (人)
		平成 25 年	平成 26 年	
一般行政部門	議会	7	7	0
	総務	218	203	-15
	税務	67	64	-3
	民生	159	161	2
	衛生	60	59	-1
	労働	0	0	0
	農林水産	30	27	-3
	商工	21	22	1
	土木	113	111	-2
	小計	675	654	-21
特別行政部門	教育	126	115	-11
	小計	126	115	-11
普通会計 計		801	769	-32
公営企業会計 部門等	水道	23	22	-1
	下水道	36	34	-2
	その他	59	58	-1
	小計	118	114	-4
合計		919	883	-36

(3) 年齢別職員構成の状況

(平成26年4月1日現在)

年齢区分	人数(人)
20歳未満	3
20歳～23歳	28
24歳～27歳	73
28歳～31歳	71
32歳～35歳	55
36歳～39歳	86
40歳～43歳	160
44歳～47歳	129
48歳～51歳	77
52歳～55歳	76
56歳～59歳	119
60歳以上	6
計	883

2. 職員の給与の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額等の状況

(平成26年4月1日現在)

古河市	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	42歳6カ月	319,900円	386,300円
技能労務職	53歳2カ月	299,400円	332,400円
茨城県	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	42歳9カ月	338,301円	417,136円
技能労務職	52歳0カ月	343,516円	390,167円

※1 平均給料月額は、職員の基本給の平均です。

※2 平均給与月額は、給料月額と月々支給される地域手当・扶養手当・住居手当・通勤手当・時間外勤務手当などの諸手当を合計したものです。

(2) 職員の初任給の状況

(平成26年4月1日現在)

区 分		古河市	茨城県
一般行政職	大学卒	172,200円	172,200円
	高校卒	140,100円	140,100円
技能労務職	高校卒	137,200円	137,200円

(3) 職員の期末・勤勉手当の状況

(平成26年度支給割合)

	古河市		茨城県	
	期末手当	勤勉手当	期末手当	勤勉手当
6月期	1.225月分	0.675月分	1.225月分	0.675月分
12月期	1.375月分	0.825月分	1.375月分	0.825月分
計	2.6月分	1.5月分	2.6月分	1.5月分

(4) 級別の標準的な職務内容

(平成26年4月1日現在)

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級
行政職	主事 技師 主事補 技師補	主事 技師	主幹	係長 主査	課長補佐	課長 副参事	参事	部長 理事

※1級：定型的な業務を行う主事、技師

※2級：高度の知識または経験を必要とする業務を行う主事、技師

(5) 一般行政職の級別職員数の状況

(平成26年4月1日現在)

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	計
職員数	116	52	152	173	89	59	21	14	676人
構成比	17.1%	7.7%	22.5%	25.6%	13.2%	8.7%	3.1%	2.1%	100%

(6) 特別職の報酬等の状況

(平成26年4月1日現在)

区 分		給料月額等
給料	市長	970,000円
	副市長	770,000円
	教育長	670,000円
報酬	議長	500,000円
	副議長	450,000円
	議員	400,000円

区 分		支給割合
期末手当	市長	平成26年度 6月期：1.40月分 12月期：1.70月分 計：3.10月分
	副市長	
	教育長	
	議長	
	副議長	
	議員	

3. 職員の福利厚生制度の概要

●職員の福利厚生については、地方公務員法第42条に基づいて定められた地方公務員等共済組合法により、茨城県市町村職員共済組合が運営主体となっている共済制度があります。共済組合では、組合員である職員とその被扶養者の病気やケガ・出産・死亡等に対して必要な給付を行う「短期給付事業」、職員の退職・障害・死亡に対して年金または一時金の給付を行う「長期給付事業」、健康の保持増進や住宅資金の貸し付けなどの「福祉事業」を行っています。

●互助会組織として「古河市職員互助会」を組織し、会員は全職員で886人(平成26年4月1日現在。特別職を含む)となっています。相互扶助および福利厚生を目的に、人間ドック助成や市主催のまつり等の行事にも参加し、市民の皆さんとの交流を図っています。



4. 職員研修の実施状況

地方公務員法第39条に「職員には勤務能率の発揮および増進のために、研修を受ける機会が与えられなければならない」とあります。

市では、個々の能力を十分に発揮し、環境の変化に的確に対応でき、かつ市民サービス向上のための施策実現に貢献できる「人材」を戦略的に育成するための研修を実施しています。



▲新規採用職員研修

■平成25年度に実施した職員研修

○階層別研修

与えられた職責を全うする^{まっとう}ための基本的姿勢を身につけるための研修。

研修名	延べ人数
新規採用職員研修	237人
第4部職員研修	
新任係長研修	
新任課長補佐研修	
新任課長研修	
新任部長研修	

○専門・実務研修

与えられた職務を遂行し、進化させるために必要な知識や技術などを身につけるための研修。

研修名	延べ人数
コミュニケーション力向上研修	973人
政策形成研修	
危機管理研修	
女性リーダーキャリアアップ研修	
普通救命研修	
交通安全研修 など	

○派遣研修

高度な専門的知識や行政運営能力などを身につけるために、自治大学校、市町村職員中央研修所などの専門研修機関に派遣。

研修名	人数
地域経営講座	76人
自治体ファイナンス講座	
地方自治講座	
民法講座	
地方自治体の環境行政推進講座	
地域コミュニティ形成と活性化の進め方	
自治体経営における行政評価の活用と見直しのポイント	
自治体における戦略広報とシティプロモーション など	



◀まちづくり全般についてグループで研究・討論・発表を行った「政策形成研修」

めざす古河市職員像

市民視点

古河市を愛し、
市民の立場で対応して、
信頼される職員



未来視点

未来を見すえ、
自らの能力を向上させ、
行動できる職員

古河市学校教育褒賞 古河市教育論文表彰



▲小学生の受賞者の皆さん



▲中学生の受賞者の皆さん

2月5日、三和公民館(三和庁舎3階)で古河市学校教育褒賞授与式・古河市教育論文表彰式が行われました。これは毎年、学校教育上特に優れた成果を残した個人・団体を表彰するものです。

平成26年度は、作文、標語、ポスター作品、絵画、吹奏楽など、芸術・文化の部門で優秀な成績を収めた児童・生徒15人・3団体へ学校教育褒賞が授与されました。また、教育論文で優れた成績を収めた教職員36人を表彰しました。

高齢者叙勲

瑞宝双光章



南部 進さん
(88歳、緑町)
元総和町立
総和南中学校長

全国大会出場

【第12回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会】

男子の部：古河ますらお

【はまなす杯第9回全国中学生空手道選抜大会】

2学年女子個人組手の部：宇都木未歩さん(総和空手道スポーツ少年団)

【第34回全国高等学校空手道選抜大会】

男子個人組手の部：宇都木渉さん(古河第一高等学校)

【第26回全日本ベンチプレス選手権大会】

一般男子65kg級：高橋恵介さん(BIGGUNS)

【平成26年度全日本卓球選手権大会】

ジュニア男子：小久保晟弘さん(総和北中学校)

【第16回全国中学選抜卓球大会】

○総和北中学校

・女子団体：綾部紗也さん、金丸華蓮さん、鈴木沙綾さん、館野萌さん、塚田愛理さん、峯ももかさん、篠崎奈々美さん、佐々木花菜さん



注目! まちの話題

……和と洋のコラボレーション
新春ジョイントコンサート……

1月17日、古河市民芸術鑑賞の集い実行委員会の主催による「新春ジョイントコンサート」がユースセンター総和で行われました。

出演は、ジャズピアニストの国府弘子さんと津軽三味線奏者の新田昌弘さん。世界的に活躍する二人が『津軽じょんから節』やビートルズの『ヘイ・ジュード』などを披露。ジャズ調にアレンジするなど自由な演奏で聴衆を魅了しました。

最後に演奏した『トルコ行進曲』では手拍子が湧き起こるなど、会場の熱気は最高潮に。皆が一つになって「音の会話」を楽しんでいました。



▲ジャンルを越えた共演。ピアノと三味線が奏でる音色で会場は盛り上がりました

『はじまりのひかり』PVを道の駅で撮影



▲本番前の室内での練習。華むすめも真剣です

茨城県内全44市町村を舞台に県民が曲にあわせてダンスを踊り、その様子を映像化するプロモーションビデオ(PV)の撮影が、2月12日に道の駅「まくらがの里こが」で行われました。PVは、平成24年10月に茨城県が開設したインターネットテレビ「いばキラTV」開設2周年を記念してオリジナルテーマ曲『はじまりのひかり』が完成したことから制作。古河市のパート収録には、華むすめなど12人が参加しました。撮影されたPVは、3月にいばキラTV(<http://www.ibakira.tv/>)で公開予定です。

貴重な文化財を守る
～民家園の防火訓練～



▲園内4カ所にある放水銃から一斉に放水

1月21日、古河総合公園内の民家園で防火訓練が行われました。この訓練は、1月26日の「文化財防火デー」にあわせて毎年実施しているもので、近隣の防火協力者や古河消防署員が参加しました。

民家園の管理者から放水銃の使い方や消火の手順について説明を受けた後、参加者たちはかやぶき屋根に向けて放水。水圧や角度を確かめていました。

歴史あるかけがえのない文化財を守り、後世に残していきましょう。

最後まであきらめないで
ジャンプ！ ジャンプ！ ジャンプ！



▲チームジャンプで優勝した「わゴム」。見事な団結力を発揮しました

2月7日、中央運動公園総合体育館で「第40回古河市小学生なわとび大会」が開催され、市内の小学生約400人が参加しました。

種目は、うしろとびや2重とびなど、学年ごとにとんだ回数を競う個人競技と、20人以上のチームで挑むチームジャンプ。

12チームが参加したチームジャンプでは、この日に向けて練習を重ねてきた児童たちが息のあったジャンプを披露。90秒間で165回をとんだ「わゴム」(仁連小学校)が優勝しました。

介護予防フォーラム
～だれもが安心して暮らせるまちを目指して～

1月17日、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で、『介護予防フォーラム』が行われ、約600人が参加しました。

基調講演のテーマは『認知症を予防するテクニック』。筑波大学教授(医学博士)で認知症サポート医の水上勝義みずかみかつよしさんが、認知症の症状や、発症のリスクを下げる生活習慣を紹介しました。「認知症の人には、食事したことなど、行動そのものを忘れるという症状が見られます」と話す水上さん。「料理や家事、軽い運動は、認知症の予防に効果的です」とアドバイスしていました。

また参加者からの質問には「外出して人との交流を楽しむことも、脳にとって良い刺激になります。今ここにいることは良いことなんですよ」と、会場の笑いを誘っていました。

子どもたちの心にふれる作品展



▲色彩豊かでアイデアあふれる作品が、来場者の目を楽しませました

1月30日・31日の2日間、市内小中学校の特別支援学級と県立境特別支援学校に通う児童・生徒の「手をつなぐ子らの作品展」が、とねミドリ館(生涯学習センター総和)で開催されました。児童生徒の日ごろの学習成果の発表と、より多くの人に特別支援教育活動への理解を深めてもらうために毎年開かれています。

会場には絵画や習字、工作、木工品など約600人の伸び伸びとした表現力豊かな作品が、ところせましと展示。心温まる作品展となりました。



▲何事も楽しむことが大切と力説する水上さん



▲水上さんの親身なアドバイスに聞き入る参加者

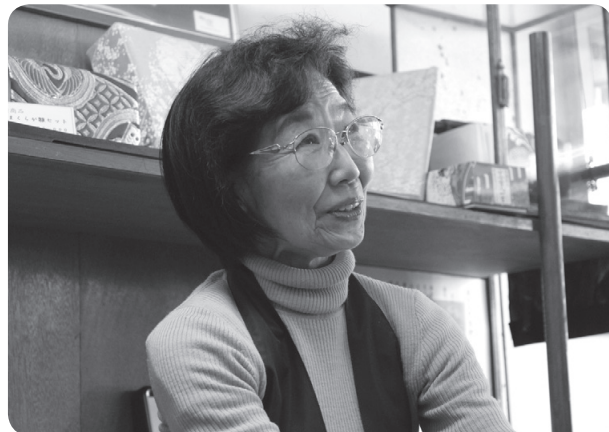


「お客様の思いを和の箱に」

みや かわ てる こ
宮川 照子さん
(73歳・平和町)

着物の帯によそお装われた美しい桐箱きりばこ。開けると中には持ち主の宝物が。和の趣を感じさせるこの箱の名前は「まくらが文庫」。古河ブランドとしての認証も受けているこの工芸品は「全国伝統的工芸品公募展」に10年連続で入選するなど、伝統工芸の分野で高い評価を受けています。

作者の宮川照子さんに「まくらが文庫」の誕生と、制作にかける思いをうかがいました。



服飾デザイナーから注文服販売へ

古河市で生まれた宮川さんは、1歳のころに日立市に移りました。「親は会社経営者で、特に服飾と縁のある家庭というわけではなかった」と話します。高校卒業後は知人の勧めから服飾学校へ。デザインを学んだ後、東京の百貨店で婦人服のオーダーデザイナーとして勤務しました。

その後、古河に戻りデザイン工房を立ち上げたのは昭和41年ごろ。ファッションショー用の衣装や展示会用マネキン服の創作が主な業務でした。4年後にはオーダー婦人服専門店として開業。以来40年以上にわたり、古河の地で注文服の制作販売を行っています。

「まくらが文庫」誕生のきっかけ

この40年、社会はめまぐるしく変化し続けてきました。日本人の生活スタイルも変わり、外国製の生地を使った注文服はなかなか売れない時代に。宮川さんは自ら新しい分野を開拓すべく、平成12年ごろから着物のリメイクなども手掛けるようになりました。

「まくらが文庫」の誕生はそのころのこと。仕入れのために出向いた京都の生地屋で見かけた古い小道具箱まくらがこぶに大きな感銘を受けた宮川さんは、古河に帰り着物の帯を使ってそれを再現。小道具箱を意味する「文庫」に、古河にかかる万葉集の枕詞「まくらが」をつけて「まくらが文庫」と名付けました。

後から分かったことですが、京都で見つけ

た箱は「定家文庫」と呼ばれる伝統工芸品で、武家時代には化粧品などを入れる箱として用いられていたものだったのです。

お客様の思いを和の箱に込めて

現在、「まくらが文庫」はお客様が持ってきた着物の帯を使って制作しています。「母の形見の帯で作った箱を目にした瞬間、涙がこぼれた」と感謝の手紙をいただいたこともありました。

「お客様の大切な人を思う心を、和の箱に込めることができることが最高の喜び」とうれしそうに語ります。

今後の展望を尋ねると「展覧会への出品やテレビでの広報などを通じて、もっと多くの人に『まくらが文庫』を知ってもらいたい。そして、一人でも多くの人の思いを形にしていきたい」と話してくれました。



▲丹精込めて作った作品。古き良き伝統を残しながらも新しいアイデアを取り入れています

図書館のオススメ

◇一般書

・図説よりすぐり国立国会図書館

国立国会図書館 編集
仏教典籍、古写本、絵巻、絵本、古活字版、幕末維新期の写真、書簡、憲法草案……。日本最大の図書館、国立国会図書館が所蔵する約4,000万点の蔵書から115の名品を精選。名品の数々を味わいながら、日本文化の歴史をたどる。

出版社…勉強出版

分類…026ズ

◇新書

・ビートたけしの「暴言力」

鈴木 文矢 著

ビートたけし、あるいは北野武名義で著した本や雑誌、幾多のテレビ番組、ラジオ放送、記者会見などから、たけしの発言

をよりすぐってまとめる。歴代ギャグ&名言から紡いだビートたけし論。

出版社…双葉社

分類…S779ビ



◇児童書

・栄養素キャラクター図鑑

田中 明 監修

きほん栄養素をキャラクター化して紹介。それぞれの栄養素の役割、含まれる食べ物、適切なとり方などがわかる。女子栄養大学栄養クリニックとのコラボで誕生した、大人も子どもも楽しめる「オモシロ」図鑑。

出版社…日本図書センター

分類…498エ

◇絵本

・きょうのおやつは

わたなべ ちなつ 作

ボウルに卵と小麦粉とお砂糖と牛乳を入れて、全部混ぜて……。？ 本を開くと、上と下のページの絵が互いに映りこみ、ひとつの絵に。立体的な空間で、おやつづくりの気分を味わえる、鏡のように反射する紙でできた絵本。

出版社…福音館書店

分類…Eワ

三和図書館

注目 企業人

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～ 「遠くで心待ちにしている人のために」

日本卓球株式会社勤務 高橋 英二さん

幼い頃から体を動かすことが好きだったという高橋さん。学生時代は卓球の強豪校で全国大会に出場するなど、腕をふるってきました。縁あって卓球メーカーで働き始めて11年。今は製品の出荷業務を行いながら、関東甲信越の各地におもむき、講習会で卓球を教えています。

一期一会の講習会。毎回参加者のレベルや顔ぶれはさまざまです。時間や会場の制約もあり「入念な準備と臨機応変な指導を心掛けています」と高橋さんは話します。

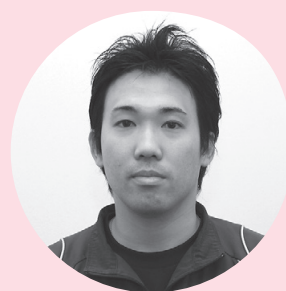
特に印象に残っているのは、ある地方でのイベント。「卓球台がなく、満足に練習ができない地域でしたが、子どもたちが目を輝かせて待っていました。楽しみにしていた人に喜んでもらえると、その充実感が次の講習会への活力になります」と話して

くれました。

「子どもからシニアの人まで幅広く楽しめるのが良い」と卓球の魅力を語る高橋さん。週に2～3日は、退社後に出身クラブの生徒たちとラリーをして汗を流しています。「心身ともに健康になるし体力もつく。スポーツをする子どもたちがもっと増えるといいですね」と話してくれました。

■プロフィール

今も現役選手として活動する高橋さん。休日は大会に出場するなど、卓球への情熱は人一倍です。
29歳・諸川在住。



古河文化見聞録

美貌のプロレタリア作家 若杉鳥子

古河総合公園桃林の歌碑

今年も桃まつりのシーズンが近づいてきました。約1,500本のハナモモが咲き誇る古河総合公園の桃林に寄り添い建つ、二つの歌碑にお気づきの方もいらっしゃるでしょうか。

一つには、

まくらがの古河の桃の樹ふふめるを
いまだ見ねどもわれこひにけり
紅のしたてりにほふももの樹の
立ちたる姿おもかけに見ゆ

という二首が刻まれています。これは、石下出身の文豪・長塚節がある女性の写真を見て詠んだ歌ですが、万葉の本歌取で、いかにも節らしい端正で、情感あふれる歌です。

もう一つには、歌に詠まれた女性が節の追悼のために詠んだ歌が刻まれています。

み歌今われなき家の文管に

忘られてあり身は人の妻

まくらがの古河の白桃咲かむ日を

待たずて君はかくれたまへり

清冽な中に深い追慕の念を感じさせる歌ですが、今月は、これらの歌の主人公ともいえる女性——節を魅了した美貌の作家・若杉鳥子を紹介します。



▲古河総合公園桃林の若杉鳥子・長塚節の歌碑

複雑な生い立ち

若杉鳥子は、明治25年12月21日、古河の豪商・鳥海新右衛門と東京神田の貸席・福田屋の女中よしとの間に庶子として生まれました。生後まもなく、古河横町で芸妓置屋「菊本」を営んでいた若杉はなの養女となります。しかし、商売柄、育児は困難で、学齢に達するまで、近在の農家へ里子に出されました。

里親にも、また養家に戻ってからでも大事に育てられたようですが、養家の家業には嫌悪感を抱いていたようです。と同時に、強い向学心と文学への憧れが芽生えていました。

横瀬夜雨との師弟関係

十代になると鳥子は、『女子文壇』などの文芸雑誌に詩歌を投稿するようになります。

このとき『女子文壇』の選者をしていたのは、その浪漫主義的抒情詩で多くの少女を魅了していた下妻在住の横瀬夜雨でした。当時、夜雨のもとには、全国の文学少女から指導を仰ぐ手紙が届いていましたが、鳥子もまた、作品の添削や語句の解釈等についての通信教授を受けるようになります。

夜雨との師弟関係は、終世を通じて続いたようです。時には、鳥子が投稿者仲間と夜雨との恋愛の仲介者となったり、恋に破れた夜雨が鳥子へその苦悶を告白、自殺をほのめかして後事を頼んだりしたこともありました。多くの弟子の中でも特に信頼を寄せていた様子がうかがえます。

ちなみに、冒頭紹介した節が見た写真というのは、友人であった夜雨宅で見た鳥子の写真でした。しかし、鳥子と節が実際に会ったことはなかったようです。二つの歌碑は、あ



若杉鳥子(1892-1937)

たかも手をつないでいるかのように、丸い石でつながれていますが、これは、せめて碑だけでも一緒に、という粋な計らいによります。

プロレタリア作家として活躍

明治41年、鳥子は、文学で身を立てることを志し上京します。中央新聞家庭部記者として働くかたわら、若山牧水主宰の『創作』等に作品を発表しました。

大正14年、プロレタリア文学誌『文芸戦線』に発表した「烈日」によって、プロレタリア作家として評価を受け、以後、『文芸戦線』『解放』などの諸誌に多くの作品を発表します。昭和2年には上野壮夫、高群逸枝、林房雄らと『創作評論』創刊に参画しました。

この間、明治44年には外務官僚の板倉勝忠と結婚しています。家庭生活は概ね幸せだったようですが、子爵令弟・外務官僚の夫人であることとプロレタリア文学を描くことの矛盾、また、作家業と主婦業との両立に悩むこともしばしばだったようです。



▲市内横山町にある若杉鳥子文学碑
短編小説「帰郷」の一節が刻まれている

若杉鳥子の作品

こうした相克に揺れながらも、詩歌、小説、随筆に多くの作品を残した鳥子ですが、昭和12年12月18日、持病の気管支喘息(一説では脳溢血)のため死去、44歳という若さでした。翌年、遺稿集『帰郷』が出版されますが、他に著書はなく、長い間、鳥子の作品を目にすることは大変困難なことでした。

しかし、近年、同郷の先達の業績を残そうと、市内在住の林幸雄氏や奈良達雄氏により、鳥子の作品がまとめられています。いずれの労作も市内の図書館で読むことができます。

鳥子の作品は、強い社会性をもちつつも情趣に富んでおり、しかも凛とした清廉さを感じさせる秀作揃いです。今年の桃まつり、おでかけ前に、ちょっと、鳥子の作品をひもといてみてはいかがでしょうか。

古河文学館学芸員 秋澤正之



▲左から林幸雄編『渡良瀬の風—若杉鳥子短編集』『一水塵—若杉鳥子詩歌集』『空にむかひて—若杉鳥子随筆集』、奈良達雄著『若杉鳥子—その人と作品』

第2回「古河市健康川柳」が 決定しました

健康づくり課では、市民の皆さんが自らの健康を考えたり、生活習慣や食生活に対する関心を高めたりして、より多くの人に特定健診や特定保健指導を受診・利用していただきたいと考え、昨年度から健康川柳を募集しています。

第2回となる今年度のテーマは『健診』。広報紙や健診会場で募集を行い、90作品の応募がありました。テーマが絞られたためか昨年より応募数は減少しましたが、健診会場で鉛筆を握りながら真剣に考えている皆さんの表情が印象に残っています。

応募作品は、流行語を交えたユニークなもの、家族への感謝が込められたもの、健康を維持するための意気込みな

どさまざま。どの作品も、応募者の健康への熱い思いが感じられました。

また、今年度は選考方法を変更し、一次選考を通過した5作品を健診会場で投票していただき、入賞作品を決定しました。有効投票数は1,150票。あらためて皆さんの関心の高さを感じました。

投票の結果、今年度の入賞作品が次のとおり決定しました。入賞作品は、健診会場や各庁舎に掲示したり、健診をお知らせするパンフレットに掲載したりするなど、健康づくり事業に活用させていただきます。たくさんのご応募・投票ありがとうございました。

最優秀作品(1作品)

298票

用心と
自信いただく
健診日
米島義博(東二丁目)

優秀作品(2作品)

276票

健診で
拾った命
生き直す
福士博子(駒羽根)

271票

健診は
長寿切符の
一里塚
今井初子(上辺見)

健康づくり課

[敬称略]

最優秀作品に選ばれた^{よねしまよしひろ}米島義博さん(84歳・東二丁目在住)に、インタビューをしました。

Q 日ごろ行っている健康づくりは？

A 毎日約1時間、歩いたり自転車に乗ったりして体を動かしています。親しみやすい古河の街を歩くのが好きで、特に昔見た三国橋から見える富士山がいまだに忘れられませんね。

Q 作品にはどのような思いが込められていますか？

A 初めて市の集団健診を受けて、保健師さんから、とても親切に健康や生活のアドバイスをいただきました。「ありがたい」と感じた感想を川柳にしました。日ごろから、感じたことをメモに書きとめています。



▲「次の健診も必ず受けますよ」と笑顔で話してくれた米島さん

●病気によっては自覚症状がなく進行する場合があります。しかし、健診で早期発見・早期治療をすることで、心身への負担も経済的な負担も軽減することができます。自分だけでなく、家族のためにも、年に1回は特定健康診査やがん検診を受けましょう。

憩いのパークの魅力

ハナモモの木々が春の訪れを

三寒四温を繰り返し、穏やかな日にはほっと息をつきます。日々の暮らしの中で、春の訪れを待ちわびています。古河総合公園では、この地を彩るハナモモの木々が、つぼみを膨らませ、訪れる皆さんを魅了する準備をしています。

今回は、総合公園の代名詞ともいえるハナモモの品種を紹介しましょう。

●矢口（ヤグチ）

鮮やかな桃色の八重咲きで、一枝に多数ついで、とても見応えがあります。当園の桃林の約8割を占めており、縁起の良い雛まつりの切り花としても使われています。



●源平（ゲンペイ）

紅白の八重咲きです。一本の木に紅白の花を付けます。源平の合戦のごとく、紅白が競い合うように咲くため、この名になったそうです。



●寿星桃（ジュセイトウ）

一重咲きのものもあれば、八重咲きのものもあり、色も紅・桃・白とさまざまです。樹高が低く、花が節々に密につくことが特徴です。



●菊桃（キクモモ）

花卉が菊のようで、色は燃えるような深紅です。当園では一番遅く開花します。



今年も3月20日(金)～4月5日(日)まで『古河桃まつり』が盛大に開催されます。ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか？

【問】古河総合公園管理棟
☎47-1129



表紙写真



写真は2月1日、中央公民館で行われた「古河華むすめ記者発表会」で撮影した一枚です。たくさんのカメラや記者に囲まれ、緊張しながらも「古河市の魅力を多くの人に伝えたい」と、笑顔でインタビューに答えてくれました。

いよいよ3月20日から始まる古河桃まつり。華むすめの4人も、着付けや接遇の研修に一生懸命取り組み、お客さまをお迎えする準備は万端です。

今年の華むすめのキャッチコピーは『**明るい夢がきらきらさく**』。4人の名前、明香里・夢子・きらら・早紀から考えたもの。自分のふるさとを愛する気持ちを大切に、がんばってください。応援しています。

古河市データ

人口



(2月1日現在) 住民基本台帳から
総人口… 145,039人 (－175)
男……………72,886人 (－69)
女……………72,153人 (－106)
世帯数…58,231世帯 (－20)
() 内は前月比

わが家のアイドル



梨乃ちゃん・壘くん
(3歳1カ月・1歳3カ月 古河)

元気いっぱい活発な梨乃ちゃんと、おとなしくて優しい壘くん。けんかをするときもあるけれど、いつも仲良く遊んでいます。

二人とも健康にスクスクと育ってね♥
(父：猛裕 母：晴香)

今月の料理

白和え
＜骨粗しょう症予防食＞



- ①木綿豆腐1丁はくずして茹で、ざるにとって水を切る。
- ②水切りした豆腐、すりごま大さじ2と1/2、砂糖大さじ2、みそ大さじ1、塩小さじ1/2、しょうゆ少々をよくすり混ぜる。
- ③ニンジン60g、コンニャク1/2枚は千切りにし、だし100ccで煮つけ、菜の花7本を入れてさっと煮る。
- ④②と③を和える。

＜4人分＞

※豆腐は水を切りすぎないことが、なめらかに仕上げるポイントです。

＜1人分＞

エネルギー＝124kcal
タンパク質＝7.3g
脂質＝6.5g
カルシウム＝194mg
食塩相当量＝1.4g



(食生活改善推進協議会)

日々奮闘！



子育てアドバイス

気をつけよう！ 子どもの誤飲



「ハイハイ」や「つたい歩き」ができるようになった赤ちゃんは、手に触れたものを何でも口に運ぶようになります。これは赤ちゃんが順調に発達している証拠です。一人で室内を移動できるようになり、行動範囲が広がるこの時期は、赤ちゃんの誤飲事故が多く発生し、特に注意が必要です。「誤飲」とは、食べ物以外のものを誤って飲み込むことをいいます。子どもの誤飲事故は5歳以下に多く、たばこや薬、化粧品、洗剤、殺虫剤、ボタン電池、おもちゃ、硬貨などさまざまなものが原因になります。

もし飲み込んでしまったら、飲み込んだものによつて対応が違います。薬品や洗剤など吐かせてはいけない場合もあるので、中毒110番や病院などに相談して指示を受けてください。

また、せきが出るとき

は気管や気管支につまっているかもしれない。異物を取り除くのに、背中をたたいたり腹部を圧迫したりする方法がありますが、針などがつたものやボタン電池などを飲み込んだ場合は病院を受診しましょう。吐き気や嘔吐、顔色が悪い、ぐったりしているなどの症状が出ているときは直ちに病院受診が必要です。

日頃から危険なものは子どもの手の届かない場所に鍵のかかる場所に保管し、常に子どもの視線で危険がないかを確認して事故を防ぎましょう。

●誤飲事故に、どう対処したらよいか迷ったときは問い合わせてください。
中毒110当番
・つくば ☎029-852-9999(365日・午前9時～午後9時対応)
・大阪 ☎072-727-2499(365日・24時間対応)

健康づくり課

平成27年3月1日発行

●発行所／〒306-0291 茨城県古河市下大野224-8 古河市役所 ☎0280-923111
●編集／秘書広報課 ●ホームページ／<http://www.city.furukawa.lg.jp/>